

2019年12月26日発行

リスクフラッシュ 288号(第10巻 第10号)

**Risk Flash No.288**(Vol.10 No.10)



発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

発行責任者：リスク研究センター長 得田雅章



2019.11.28-11.29 開催

滋賀大学経済学部主催 国際カンファレンス

『The 3<sup>rd</sup> RESSU 開催報告』

RESSU 実行委員長 吉田 裕司 (ファイナンス学科 教授)

この度の11月28日(木)・29日(金)に、滋賀大学経済学部の単独主催となる国際カンファレンスを開催いたしました。第三回目となる RESSU(レスーと発音します)の今年のテーマは、「Exchange Rate, Capital Flows, & Trade Flows」でした。日本語では、「為替レート、資本フロー、貿易フロー」となり、国際金融並びに国際貿易を主要テーマとして研究報告を募集しました。今回の RESSU カンファレンスでは、初の試みが幾つかありました。一つ目は、これまでよりも研究分野を絞り込み、その分野で顕著な業績を挙げている海外研究者を二人招聘することでした。これは、第一回目の RESSU 開催の経験から、一般的なテーマでの募集だと参加者は集まりやすいのですが、研究報告の水準には参加者間に大きな格差があることを学んだからです。



招聘研究者の一人目は、カリフォルニア大学サンタクルーズ校(UCSC)名誉教授であり、香港城市大学教授の Yin-Wong Cheung 氏です。カリフォルニア大学は複数の学校(キャンパス)を有し、UCLA、UCSD や UC Berkeley もその一部となっています。Cheung 氏は計量経済学の時系列分析手法や国際金融分野での研究が高く評価されています。

Google Scholar\*による被引用数では1,000回を超える研究論文もあります。もう一名の招聘研究者は、カナダのアルバータ大学教授の Rasmus Fatum 氏です。Fatum 氏は、政府・中央銀行による外国為替市場介入の研究論文が有名ですが、実は UCSC で博士号を取得していますので Cheung 氏の元生徒でもあります。



海外在住研究者からはフランスのレンヌ大学や韓国のソウル国立大学からの参加があり、国内からも優れた研究実績を持つ研究者が参加してくれました。これは著名な招聘研究者による基調講演が予定されていた効果だと思われます。

\*…本来は研究論文の被引用数は、国際学術誌に掲載された研究論文からの引用に限定する Web of Science 等を用いますが、一般の読者の方にも利用できる Google Scholar の数値を用いました。



RESSU カンファレンスのプログラムは、RESSU 公式ホームページをご覧ください。

URL: <https://www.ressu.org/>

今回の RESSU の二つ目の試みは、開催日程を木曜日・金曜日と平日にすることでした。これには、滋賀大の学生・教員が参加しやすくするためです。おかげで、二日間を通して 82 人の参加がありました。カンファレンス初日の研究報告終了後には、研究発表者がチャーターバスに乗り込み、地元酒蔵の酒造・岡村本家に立ち寄り、座敷での会席料理でレセプションパーティ、と楽しい雰囲気で行うことが出来ました。

今回の開催に関しては、位田学長のオープニングスピーチ、小倉理事のレセプションスピーチ、事務サイド(共通事務部企画係、リスク研究センター、経済経営研究所)の支援、学長予算による国際学会企画補助並びにリスク研究センターによる予算補助、と滋賀大学の幅広い支援のおかげで無事に第三回目 RESSU の開催を成功に収めることが出来ました。



2019.11.14 開催

リスク研究センター主催 マクロ経済学セミナー

## 『誤行動が予測できる時間割引課題とできない課題－サーベイ実験』

池田 新介 氏（関西学院大学経営戦略研究科 教授）

文責：経済学科 教授 得田雅章

池田新介氏はご専門が行動経済学、資産価格理論、マクロ経済学であります。今年度セミナーの7回目にあたる今回はマクロ経済学セミナーのカテゴリーで、「誤行動が予測できる時間割引課題とできない課題－サーベイ実験」について、氏の研究成果をご披露頂きました。



行動経済学は2002年、2017年にノーベル経済学賞でフィーチャーされた分野であり、プロスペクト理論といえば耳にしたことがある方も多いのではないのでしょうか。私を含め経済学者の多くは、「合理的経済人」を前提とした人間行動をモデル化して分析します。ただ現実にはどこまで本当に合理的かという点に疑わしく、氏に紹介いただいたマシュマロテストやくじ選択課題では、ある種のバイアスがかかっているという事実がロバストであること紹介頂きました。時として非合理的な行動をとる経済主体を心理学の観点から分析する行動経済学には、ある意味閉塞状況に追いやられている経済学の現状を打破する可能性を感じました。

また、報告では割引率の定量化について詳述されたのが印象深かった。私が慣れ親しんでいるマクロ経済学（例えば効用関数）では、割引率は定数でアドホックに扱われる場合が多く、ある意味脇役です。それを実験によって納得できる形で数値化できるというのは新鮮な驚きでした。

氏に質問させて頂いたのですが、状況によっては全く異なる効果が得られるという知見を、金融政策のアナウンスメント効果（フォワードガイダンス）に応用できないかと考えました。市場との対話をより効果的にナッジ（誘導）することで、もはや効果がないと見られている現政策改善の一手になるのではと思いました。

来学された氏は、大学生協で彦根にまつわる書籍を手に取り、士魂商才館の展示に興味深く魅入られる等、とても彦根や近江に造詣があるようでした。またセミナーでは、フロアからの鋭い質問に真摯に答えようと沈黙考される様子が印象的だった。

# 1月16日(木)開催 客員研究員ワークショップのご案内

研究テーマ：社会科学分野におけるリスク研究  
 日 時：令和2年1月16日(木) 13:00-15:55 (予定)  
 会 場：545 共同研究室  
 参加資格：不問

来年1月16日(木) 545 共同研究室にて客員研究員ワークショップを開催予定です。  
 本ワークショップの開催目的は、学外研究者と滋賀大学研究者の研究交流を図ることにあります。  
 今回の報告者である客員研究員は、今年度の公募に学外から応募してきた研究者、本学教員との共同研究者です。  
 公募資格は、博士後期課程修了者、並びに本学以外の博士後期課程在学学生となっています。  
途中での入退場は自由ですのでご関心のある研究論文の報告(30分)だけでもご参加いただく事が出来ます。  
 事前申込及び参加資格は有りません。学部生の方もお誘いあわせの上お気軽にご参加ください。飲食自由です。コーヒースペースも用意しておりますので、お気軽にお越しください。

時間	分	発表内容	発表者	職位
13:00-13:05	5分	開会のあいさつ	得田 雅章	リスク研究センター長
13:05-13:35	30分	リスク認知とバイアスの合理性	田島正士	京都外国語大学・滋賀大学非常勤講師
13:35-14:05	30分	預金に対する心理的要因(影響) — 銀行の資金調達 —	久田貴紀	関西大学非常勤講師
14:05-14:35	30分	アムステルダム銀行における決済リスクとその対応	橋本理博	神戸大学非常勤講師
14:05-14:20	15分	【休憩】		
14:20-14:50	30分	農業使用と共有資源の維持	島田悦作	神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程在学中
14:50-15:20	30分	従業員のランクがサービスの知覚品質と顧客の選択行動に与える影響	三輪幸大	大阪大学経済学研究科・博士後期課程在学中
15:20-15:50	30分	Continuous Wavelet Analysis of the Interdependence between Onshore and Offshore Chinese Renminbi Exchange Rates	徐 磊	神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程在学中
15:50-15:55	5分	総 評	井澤龍	滋賀大学経済学部准教授

# 1月23日(木)開催 地域金融・地方創生講演会のご案内

人口が減少する地域市場での金融機関経営の選択肢～

十八・親和銀行の経営統合を踏まえて

日時：令和2年1月23日(木) 15:30~17:30

於：大津サテライトプラザ (JR大津駅前)

講師：大庫 直樹 氏 (ルートエフ株式会社・代表取締役)

主催：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

定員60名 (参加申込が必要です)

今回、講師に大庫直樹氏 (ルートエフ株式会社・代表取締役) をお迎えし、「人口が減少する地域市場での金融機関経営の選択肢～十八・親和銀行の経営統合を踏まえて」と題した講演を頂きます。

講演講師の大庫氏は、マッキンゼー&カンパニー社に入社後、1999年に同社のパートナーに選出され、2008年、独立しルートエフ株式会社を設立されました。この間、メガバンク、地域銀行、消費者金融会社といった様々な業態の金融機関の経営改革に携わってこられました。また、2017年にはルートエフ・データム株式会社を設立され、データ解析に基づくコンサルティング業務の分野にも進出されております。本業のほか、2012年～2016年に大阪府市特別参与、2013年から金融庁参与 (現職)、2016年から広島県特別参与 (現職) として、有識者の立場から金融・地方自治体行政への提言を行うなどの活動もされておられます。金融機関経営に関する著書が多数あり、「新銀行論 (ダイヤモンド社)」、「あしたのための「銀行学」入門 (PHP ビジネス新書)」、「あしたのための銀行学2 (ファーストプレス)」、「地域金融のあしたの探り方 (きんざい)」などを上梓されております。



また、今回ご講演と併せまして本学教員による地域金融に関する分析の紹介や講演後のミニ相談会及び、懇親会も企画しております。情報交換や親睦を深めていただける構成となっておりますので、ご多用のことと存じますが、万障繰り合わせの上ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

参加につきましては、事前申込制ですので、「本センターのホームページ内の[応募フォーム](#)、もしくはお電話 (0749-27-1404) より”参加申込をお願いいたします。

## リスク研究センター事務局からのお知らせ

### 冬季休業のご案内

令和1年12月28日～令和2年1月6日

今年も1年、情報誌リスクフラッシュをご覧いただきありがとうございました。  
早いもので、今年も年末のご挨拶をさせて頂く時期となりました。  
皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

時節柄、ご多忙のことと存じます。  
くれぐれもお身体にはご自愛くださいませ。  
それでは、良いお年をお迎え下さい。



発行：滋賀大学経済学部 附属リスク研究センター

編集委員：得田雅章、近藤豊将、石井利江子、野田昭宏、菊池健太郎、松下京平、井澤龍、清水昌平

事務補佐員：山崎真理

事務局 (Office Hours:月-金 10:00-17:00)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

E-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp) URL→[Webpage](#) : [Facebook](#) : [Twitter](#)